

第27号

今号の内容



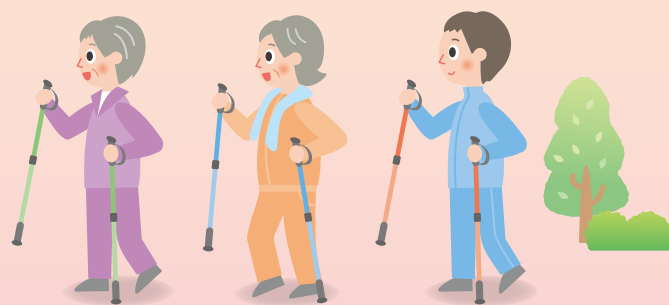
コロナ禍でのさまざまな取組

地域ケアプラザと地域の福祉保健活動

「つづき あい通信」は、都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」を推進する地域の取組や、関連情報を紹介する計画情報誌です。

令和3年度は第4期都筑区地域福祉保健計画(5か年計画)のスタートの年です。しかし、新型コロナウイルスの影響を受けて、地域の福祉保健活動にも多くの制限が加わった1年でした。そのような中でも、それぞれの地区では、地域の課題や今後のよりよい地域づくりを目指して検討を重ねて策定した計画とその目標に沿った取組を進めています。

今回のあい通信では、地域ケアプラザが取り組んでいる地域支援について取り上げています。現在、都筑区内には5つの地域ケアプラザがあります。地域ケアプラザもまた、さまざまな感染対策を行い、工夫しながら福祉保健活動に取り組んでいます。それぞれの特性を活かしながら、地域の皆さまからの声に耳を傾け寄り添って行われた取組をご紹介します。



都筑区地域福祉保健計画について

地域福祉保健計画の目的は、地域の皆さま、都筑区社会福祉協議会、区内地域ケアプラザと区役所の4者が協力して、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らすことのできる地域社会を実現していくことです。

都筑区で策定している都筑区地域福祉保健計画では、人と人との「であい ささえあい わかちあい」を基本理念とし、「であいが広まり、お互いにささえあい、地域がもつ力をわかちあえる地域づくり」を目指す姿としています。

加賀原地域ケアプラザエリア

横浜市加賀原地域ケアプラザでは、各地区社会福祉協議会や自治会町内会の行事、老人会、民生委員児童委員協議会のサロン、子育て支援の場等の身近な場所で地域の皆さまと直接お会いし、お話を伺うことを大切にしています。その中で伺ったお話から、今年度は各地区の公園での体操や健康測定会、エンディングノート講座の開催に発展しました。また、『自立支援協議会による民生委員児童委員協議会定例会での講座開催』、『多世代交流サロンでの障害者支援機関の紹介』のような、ネットワークづくりや交流の機会をつくりました。

今後も障害のある方の持っている力を地域に向けて発揮できる場を広げ、障害のあるなしに関わらず、誰もが暮らしやすい地域を目指して様々な活動を支援していきます。

多世代交流・孤立予防 子育て支援センターポポラとのコラボ 「365歩のマーチ体操・サンサン体操」

長期間の自粛生活による、筋力低下などのフレイル状態やうつ状態・孤立を予防するため、各地区の公園でオリジナル体操を実施しました。

川和地区、佐江戸加賀原地区、池辺地区のそれぞれの公園を借り、自治会町内会、老人会、民生委員児童委員協議会の皆さまに協力していただき周知しました。

池辺地区にある都筑区子育て支援センターポポラサテライト（ららぽーと横浜内）とコラボしたことで、子ども連れの親子の参加にもつながり、多世代交流もできました。



下敷根公園での体操の様子

コロナ禍の地域活動再開に向けた支援 「健康測定会」

老人会会長より、「コロナ禍で老人会のサロン活動が止まっている。地域住民同士のつながりが途絶えないようにしたい」という相談を受けたことをきっかけに健康測定会を実施しました。

企画段階から老人会会長や役員の皆さまと「感染対策や密にならないように開催する方法」を一緒に考えたことで、今後の老人会の活動にもつながりました。

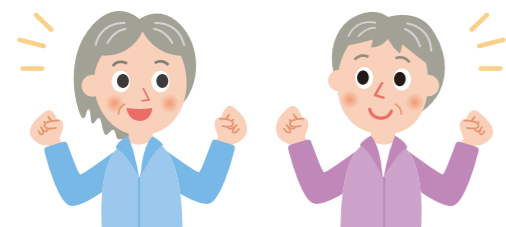
また、ケアプラザの協力医をはじめ、民生委員、保健活動推進員の皆さまの協力により、地域の方向士の交流の機会となりました。



保健師による青空説明会



上敷根寿会（老人会）での健康測定会



市民利用施設、障害事業所との連携 「お絵描きワークショップ」

「絵を描くのが苦手な子どもでも、皆で楽しく描いてみよう」というコンセプトで企画し、川和地区の川和小学校コミュニティハウスや池辺地区の都田小学校コミュニティハウスと一緒に、夏休みの小学生向けワークショップを開催しました。

講師は障害者生活介護施設「カブカブ川和」に通う方で、絵を描く子どもたちに声掛けをしながら優しく見守っていました。布に描いた絵は、ボランティアの方がミシンで縫いマスコットにしました。

コミュニティハウスと一緒に活動することで、普段ケアプラザとの接点を持ちにくい子育て世代の方が地域ケアプラザを知る良い機会となりました。



ミシンで縫うマスコット



講師によるワークショップの様子



地域の企業と協働 「スマホ講座」

スマホ講座開催のきっかけは、地域の方の「スマートフォン（スマホ）は、難しくて使うことができない」との声からでした。ケアプラザから佐江戸加賀原地区にある京セラ株式会社に講師の依頼を働きかけたところ、地域貢献として積極的に協力いただけることになり、基本的な操作から学べる「スマホ講座」がスタートしました。

講座は毎回大人気で、コロナ禍でありながらも今年で3年目となり、地域の高齢の方々にスマホの利用がどんどん広がってきています。また、新たな活動として、地域の皆さまによる自主的なスマホサークルの立ち上げもあり、さまざまな支援を行っています。スマホでつながることを通して、地域の皆さま同士のコミュニティができつつあります。



スマホを使いながらの学ぶ講座の様子



お問い合わせ先

加賀原地域ケアプラザ

【住所】都筑区加賀原1-22-32

【電話】045-944-4640(代表)

【FAX】045-944-4642

【ホームページ】<https://www.nakagawa-tokushokai.com/main/office/kagahara.html>



葛が谷地域ケアプラザエリア

横浜市葛が谷地域ケアプラザは、都田地区・荇田南地区・渋沢地区・ふれあいの丘地区・柚木荇田南地区の5地区を担当しています。5地区のそれぞれは地域によって特色や状況が異なり、昔ながらのつながりが見られる地域がある一方で、若い世代の世帯への呼び寄せ等により高齢者が増えている地域もあります。私たちはケアプラザの機能や事業を通じて、お困りごとの把握とその解決に加え、地域のつながりがさらに進むよう、地域の皆さまとともに取り組んでいます。

子育て支援 サロンの運営やプログラム内容について、ケアプラザと一緒に考え、活動の周知や新たなボランティアの紹介などを行っています。

子どもと地域とのつながりづくりのための活動が各地域で行われています。赤ちゃん会や子育てサロン、外あそびいく等の活動を通じ、地域ぐるみで子どもと子育て世代をサポートしています。

また、子どもと高齢者が交流する機会を増やす等、幅広い年齢層がつながる取組も始まっています。子育て支援を起点に、多世代が自然につながり、いつでも助け合えるような地域づくりが広がっています。



外あそびいく



子育てサロン



赤ちゃん会



健康づくり・介護予防 地域の健康にかかわるイベントの企画のお手伝いや、サークルの活動支援を行っています。

広場に集まったラジオ体操やウォーキング、歌の会、認知症予防の脳トレ等、心身の健康を維持し、いつまでも元気に過ごせるように地域の方々は積極的に地域の活動を支援しています。

老人会主催の取組や有志のサークル、地区別計画の目標に合わせて新たに立ち上がったグループ等、健康づくりや介護予防を目的としたさまざまな活動が行われています。

活動の中で健康チェックが企画されている地域もあり、楽しく身体を動かしながらお互いの元気を分かち合える場となっています。



歌声&エクササイズ



仲町台のラジオ体操



健康チェック



えだみなみの歌声

災害へのそなえ 地域の話し合いの場にケアプラザも参加し、各地区または各自治会の状況に応じた要援護者支援の体制づくりができるように支援しています。

各地区または各自治会において、災害時要援護者の把握や登録情報の更新、支援グッズ、防災備品の確認、防災拠点での避難訓練など災害時に備えた取組が行われています。

また、要援護者の支援方法や災害が起きた時に機能する住民同士のネットワーク構築など具体的な体制づくりも進められています。



登録ボランティアとの顔合わせ会議



高齢者のつどいの場

サロンの立ち上げや運営では、ケアプラザが企業や関係機関等と地域とのつなぎ役となり、地域の中で高齢者の楽しめる居場所が増えるように支援しています。

認知症カフェは、元気な方も認知症がある方も一緒に笑って楽しく過ごせるつどいの場となっています。ちょっとした勉強会や、体操、脳トレ、そして楽しいおしゃべりが、参加者の楽しみや生きがいにつながっています。



ほほえみ交流カフェ



みやこちゃんおしゃべりサロン



あいテラス

地域支え合い活動

地域で増えている困りごとや毎月の活動内容についてケアプラザも共有し、必要に応じて関係機関との調整や心配な高齢者等の相談対応を行っています。

地域に住む高齢者や障がいのある方等の生活のちょっとした困りごとについて、地域のボランティア団体がお手伝いをしています。

お手伝いを通してご近所同士のつながりが広がっています。

住み慣れた地域で安心して暮らせるように毎月の定例会で地域情報や活動状況を共有し、依頼する方の生活や気持ちに寄り添った活動をしています。



ほほえみの会



ふれあいの丘ほっとボランティアの会



すべての人が楽しみながら活動し、安心して過ごせる地域づくり

ハッピーアワー

障がいのある方も無い方も一緒になって参加できる余暇活動です。バンド演奏やカラオケ、食事会等を楽しんでいます。



くずがやゆめひろば

「地域と障がい児世帯をつなぐ事業」として全地区が一つになって障がいの理解や周知、交流会等の活動を行っています。



お問い合わせ先

葛が谷地域ケアプラザ

【住所】都筑区葛が谷16-3

【電話】045-943-5951(代表) 【FAX】045-943-5961

【ホームページ】<http://www.yokohamashakyo.jp/kuzugaya/>



新栄地域ケアプラザエリア

横浜市新栄地域ケアプラザの担当エリアには、4つの連合町内会があります。早淵川からケアプラザに向かい緩やかな登りとなっている「新栄早淵地区」、ケアプラザから都筑区役所に向かってなだらかな丘陵地となっている「勝田茅ヶ崎地区」、ケアプラザの北西に位置して少し高い位置にある「かちだ地区」、ケアプラザの西側に位置して緑道でつながっている「茅ヶ崎南MGCRS地区」です。

地域の主体性を尊重しながら、地域福祉保健計画の推進と地域ニーズに合った地域支援を展開しています。

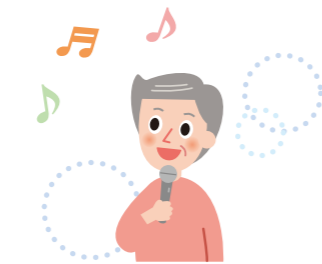
地域で顔の見える関係づくりへの協力 「歌声喫茶ゆいぴー」

新型コロナウイルス感染症により地域の各活動や行事が中止になるなど、地域の方向士が顔を合わせる機会が減少しました。新栄早淵地区で年4回地域主体で開催していた歌声喫茶も、「歌う」「人数が多い」「高齢者が多い」といった面から開催が難しく、長く休止が続いていました。そのような中、何とか工夫をして活動再開しようと地域の方々と話し合い、内容を工夫し感染対策を徹底して再開しました。

地域活動をきっかけに、地域住民同士の顔見知りから、助け合い、何かあった時に手を取り合える関係づくりをケアプラザも一緒に目指します。



ケアプラザが会場として利用出来ない時期には、近隣の小学校の体育館を借りて開催



運営ボランティアの皆さまの心の支えとなるべく取組 おもいやりネットワーク「サロンひだまり」

住民が毎週気軽に集える居場所となっていた、かちだ地区おもいやりネットワークの活動「サロンひだまり」がコロナ禍で休止になりました。地域住民からサロン再開希望の問い合わせがあるたびに、ボランティアの皆さまは活動再開について悩まれていました。休止中でもボランティアの皆さまが参加者の方々を気にかけている事や少しずつ動き出しているという事を地域に伝えるために、想いを込めた広報紙を作成しました。

ケアプラザは、運営ボランティアの皆さまと話し合いの場を持ち、心の支えにもなるよう取り組んでいます。



「サロンひだまり」の活動の様子

運営ボランティアの皆さまの顔写真と、全員からのメッセージを掲載した「ひだまり通信」を地域と一緒に作成



ケアプラザの役割を知ってもらうための取組 「勝田茅ヶ崎地区社会福祉協議会向け研修」

地域で新たに役員を担う方々は、関係機関の役割や機能、自分たちの住んでいる日中の地域活動を知る機会が少ない状況にあります。地域に一番近い存在であるケアプラザとして、何かあれば相談しようと思ってもらえるよう、ケアプラザの役割や自治会町内会・民生委員児童委員・老人会との関わり、学校・施設・企業との連携について伝える出張研修を行いました。この研修がきっかけとなり、参加した方から「地域でこういった活動をやってみたいけれど、協力してもらえないか」とのお話を受けました。

ケアプラザをより知ってもらうことで、地域と協力し合い、地域のつながりづくりの輪を一緒に広げていきます。



勝田茅ヶ崎地区の方々と一緒に行った活動項目を写真や具体例を多く取り入れて説明



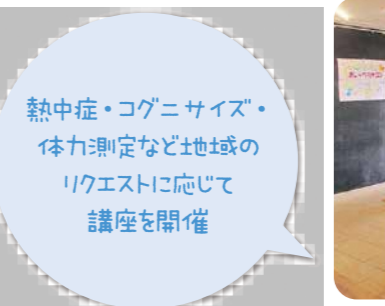
ケアプラザから遠い地域の活動は出向いて応援 「茅ヶ崎南子育てサロン」「おしゃべりサロン」

地域によってはケアプラザから遠いエリアもあります。横浜市営地下鉄ブルーライン「センター南駅」から徒歩圏内の地域は、子育て世代からも人気で若い世代も多く、また転入者も多い地域です。親子の地域デビューの場となっている「茅ヶ崎南子育てサロン」では、地域のボランティアの皆さまが先輩ママとして親子に声を掛け、子育てを応援しており、ケアプラザも運営に協力しています。また、茅ヶ崎南MGCRS地区で交流の場として地域に開かれている「おしゃべりサロン」では、楽しみながら健康づくりができるようケアプラザによる出張講座を定期開催しています。

ケアプラザから離れている地域でも、住民同士が交流できる活動が長く継続出来るよう、積極的に地域活動に協力しています。



都筑区内で最大規模の人数が集まるクリスマス会。主催の地区社協会長がサンタに扮してプレゼントを配布



熱中症・コグニサイズ・体力測定など地域のリクエストに応じて講座を開催



「おしゃべりサロン」への出張講座の様子

お問い合わせ先

新栄地域ケアプラザ

【住所】都筑区新栄町19-19

【電話】045-592-5255(代表) 【FAX】045-595-3321

【ホームページ】<https://www.hama-wel.or.jp/branch/shinei/>

中川地域ケアプラザエリア

横浜市中川地域ケアプラザのある中川地区は、のどかな雰囲気を持つ地区がある一方、多くの地区は港北ニュータウンの開発により、計画的につくられたまちとなっています。センター北駅周辺の商業地区の利便性だけでなく、多世代の住民が散歩を楽しめる緑道や、集まれる場所の多さといった介護予防や健康増進に適した地域特性を活かしつつ、ケアプラザでは多くの活動を支援しています。

中川ポールウォーキング倶楽部

中川ポールウォーキング倶楽部は、ポールウォーキングを通じて「ロコモティブシンドローム予防・介護予防」につながる健康な体づくりに努め、健康寿命の延伸に貢献することを目指しています。原則として第1・第3金曜日、第2・第4月曜日の月4回定例会を開催し、歩行能力・体力に応じたロング（約5km）、ショート（約3km）の2コースを設けています。季節ごとの花や鳥など、緑道が多い中川ならではの自然を楽しみながら歩いています。

ケアプラザでは、ウォーキングに興味のある方には中川ポールウォーキング倶楽部をご紹介します。メンバーの方々には活動に関する相談等を通して「救急講習」を企画するなど、日頃から連携を取りながら支援を行っています。



地域の多世代交流 「ひかりがおか公園体操」

町内会、老人会、公園愛護会の協力のもと、都筑区子育て支援センターポポラ（以下、ポポラ）と共催で牛久保西ひかりがおか公園での体操を始めました。「みんなの体操」「ラジオ体操1&2」「アンパンマンのサンサン体操」で体を動かし、体操の前後には、みんなでゴミ拾いをします。

令和3年度より試験的に始めた取組で、コロナ禍における地域住民の孤立防止やとじこもりが原因の運動不足の解消を目的としています。母子やシニアの方々に体を動かしてもらう良い機会であり、多世代交流の場、人と触れ合える場、そしてケアプラザやポポラの情報発信の場となっています。



ふれあい大綱 認知症予防カフェ

平成28年度から毎月25日に、大綱町内会館で認知症予防カフェを開催しています。コロナ禍で開催できない時期もありましたが、体操や頭を使うレクリエーションプログラムも充実し、毎回大盛況です。

参加している地域の方からも「色々な方と触れ合える場があって嬉しい」といった声が多くあります。今後も良い形で継続していけるよう、ケアプラザでは運営に向けた支援や調整を行っていきます。



なかなかサロン

毎月第2・第4水曜日13:00~15:00にケアプラザで開催されている（なか）がわの（なか）まづくり「なかなかサロン」は、ボランティアグループなかなか会の主催で、お茶を飲みながら健康や地域に関する情報交換などをする、気軽なおしゃべりを楽しむ会です。予約不要で、どなたでも気軽に参加することができます。

ケアプラザの職員も地域の方の生の声を伺うため、時折参加しています。



グッドネイバース倶楽部 おたがいさまの会

令和2年1月、大綱西にある大型マンションフォレストパーク四季彩の丘において、マンション住民同士の助け合い活動として、日常生活支援ボランティアグループが立ち上がりました。

フォレストパーク四季彩の丘が掲げる「安心・安全に暮らせるコミュニティづくり」を目指し、高齢者世帯を対象とした住民のちょっとした困り事に応えようと、共助の心をもった有償ボランティアグループが活躍しています。ケアプラザでは、生活支援コーディネーターが立ち上げ前から関わっており、定例会にも参加しています。



お問い合わせ先

【住所】都筑区中川1-1 ふれあい中川1階
中川地域ケアプラザ 【電話】045-500-9321 【FAX】045-910-1513
【ホームページ】<https://wakatake.net/category/facility/carenakagawa/>

地域の子育て支援 「タンポポひろば」

乳幼児とママ達の交流サロン「タンポポひろば」では、手遊びや絵本の読み聞かせ、玩具遊びなどをして、ゆったりと楽しい時間を過ごします。年4回の外遊びでは、牛久保西ひかりがおか公園で、砂場遊びやシャボン玉・バルーン遊びなどをします。支援者は育児の先輩なので、ママは心配や困りごとにも気軽に相談できます。月1回の開催で、母親達の孤立と児童虐待防止を目的に0、1歳児の母親の居場所づくりができるようケアプラザも携わっています。



スローカフェ都筑

65歳からのコミュニティサロンで、「NPO法人 I Loveつづき」が運営しています。中川駅から徒歩3分程にある「シェアリーカフェ」で毎週金曜日10:00~13:00に開催しており、予約不要で気軽に参加することができます。

ゆったりくつろげる「スローカフェ都筑」では、座ったまま出来るヨガなどのさまざまな講座があり、講座後の食事と飲み物を楽しむ時間は、シニアの皆さまにとって支え合いの場となっています。

ケアプラザは立ち上げ前から参加し、役立つ情報の発信や「認知症サポーター養成講座」の企画などを行っています。



東山田地域ケアプラザエリア

地域の大半は港北ニュータウンの開発により計画的にまちづくりが行われた地域です。中原街道・第三京浜沿いは事業所が集中する工業地域で、北山田駅を中心に地域を東西に横断する荏田綱島線沿いは、中高層の商業・業務施設と集合住宅が並んでいます。

つながりづくりで孤立予防 地域の居場所とケアプラザ 「ちょっと立ち寄れる場(カフェ)」

東山田地区の各町内会・自治会には「ちょっと立ち寄れる場(カフェ)」があります。それぞれのカフェで運営の仕方や内容が異なりますが、町内会に関係なく誰でも立ち寄れる場として活動しています。ケアプラザもカフェに顔を出し、旬な情報の提供やその場で参加者の相談を受け、問題をいち早く解決できるよう必要な機能につなぐなどしています。また、カフェ運営の悩みや依頼に応じて、カフェと介護保険事業所や専門職をつなぐコーディネート等もしています。コロナ禍でほとんどのカフェが活動を休止していた時に、カフェの代表者から「他のところの状況が知りたい」との声を聞き、地区社会福祉協議会と一緒に活動の状況共有を目的とした「ちょっと立ち寄れる場(カフェ)連絡会」を開催しました。「今までつながっていた人たちとカフェ休止中でもつながり続けるにはどうしたら良いか」という声があがった時には、「ゆるやかなつながりづくり」をテーマとした講座を開催しました。今はカフェが発行しているお便りにケアプラザからの情報を入れ、コロナ禍後のカフェ再開に向けて定期的に近況を聞くなど、カフェとの関わりを続けています。

ケアプラザでも「ちょっと立ち寄れる場(カフェ)」と同様に、和気あいあいとした雰囲気や年齢・障がいの有無を問わず誰でも参加できる「おさんぽカフェ」を月1回開催し、多くの方が参加できる新たな地域のつながりの場をつくっています。



地域の子育て支援者と連携 「山田富士公園で遊ぼう!」

保育園の子どもたち、犬の散歩、シートを敷いてのお食事、お出かけの時の通り道として地域の皆さまに愛されている山田富士公園で、子育て親子の交流の場を開催しています。緊急事態宣言下は別として、コロナ禍でも月に一度、「公園あそび」の活動ができていました。山田地区民生委員児童委員協議会が主催し、集いの広場、都筑区子育て支援センターポポラ、区役所、ケアプラザ等が共催となっています。毎月15組強の親子が集まり、公園には子どもたちの楽しそうな声が響き渡ります。このエリアは子育て世帯が多く、転入転出も多いこともあり、支援者は必要な支援につなげられるように地域の状況を共有し、連携して相談や事業を進めています。大雨などで「公園あそび」が中止になった場合も公園へ出向き、中止と知らずに来た方の相談を受け、ママ友の輪が広がり楽しく子育てできるようにと、事業の案内やケアプラザの周知、必要な機関への案内などをして、気軽に相談できる関係づくりを心がけています。



民生委員と協働して高齢者支援 「ふれあい昼食会」

山田地区では民生委員が高齢者向けの昼食会「ふれあい昼食会」を開催しています。現在はコロナ禍のため昼食は持ちかえりとし、別のプログラムを実施しています。ケアプラザは体操や脳トレプログラムを提供していますが、職員が体操を指導するだけでなく、より専門性の高い体操が提供できるようにと、近隣の介護保険事業所に声をかけて、理学療法士等に体操を教えられるようコーディネートをしています。また、昼食会の参加者からコロナ禍で困りごとが増えてないかなどのちょっとした相談を受けられるような仕組みをつくっています。民生委員には相談のある参加者との顔つなぎをしてもらい、専門機関につなげる支援をしています。昼食会のスタッフから運営上の相談を受けることもあり、活動が継続できるように一緒に検討しています。



お問い合わせ先

東山田地域ケアプラザ

【住所】都筑区東山田町270

【電話】045-592-5975 【FAX】045-592-5913

【ホームページ】<http://www.yamabikonosato.jp/yamata/>



「つづき あい基金」助成金とは



「つづき あい基金」助成金は、第4期都筑区地域福祉保健計画に定める目標の実現に向けた活動を行う団体に対し、計画の推進を資金面から支援する助成金です。第3期計画期間中は地域のサロン活動などに対する助成でしたが、第4期計画期間中は、新型コロナウイルス感染症の影響により縮小や休止している地域福祉保健活動の再開や活性化、啓発を目的とした取組への助成となっています。今年度の助成決定団体、内容は次の通りです。

	助成対象活動	団体名	具体的取組、内容	助成金額
1	新しい生活様式に合わせた、地域福祉保健活動を活性化するための活動方法や組織運営等のあり方に関する検討費用	茅ヶ崎南MGCRS連合自治会	①福祉保健活動の効果的な広報について外部講師から学ぶ。 ②福祉保健活動を活性化させるための活動方法や組織運営のあり方の検討をする。(年6回会議)	30,000円
		NPO法人アーモンドコミュニティネットワーク	①パソコン研修(人材育成支援) ②ホームページプロジェクト会議、研修など8回開催予定	30,000円
2	区計画及び地区別計画の推進に関する広報紙の発行	茅ヶ崎南MGCRS連合自治会	広報の発行 3,000部 年2回予定	15,000円
		川和地区社会福祉協議会	広報の発行 5,000部 年2回予定	20,000円
3	新しい生活様式に合わせた、地域福祉保健活動を活性化するためのツール・資料の整備やホームページ、SNS等による周知・啓発に係る初期導入費用	東山田地区社会福祉協議会	購入品 プロジェクター用自立スクリーン、レーザーポインター 具体的取組 第4期東山田地区地域福祉保健計画の防災アンケート実施等について、地域向け説明会や地区社会福祉協議会福祉部長会の研修に使用する。	60,000円
		川和地区社会福祉協議会	購入品 ホームページ制作費用(外注)、ホームページ制作ソフト、プロバイダー費用 具体的取組 川和地区のホームページを作成(スマホでも閲覧可能にする)、情報の共有を図り、タイムリーに伝える。	100,000円

令和3年度「つづき あい基金」助成金を活用した取組

スクリーンを活用した「東山田地区社会福祉協議会 福祉関係団体等連絡会」

「福祉関係団体等連絡会」は地区社会福祉協議会や連合町内会自治会、地区民生委員児童委員協議会、ボランティア団体等の代表者が一堂に会し情報交換する場です。

当日は各団体のコロナ禍における活動状況等の情報交換をした後、「よこはま地域福祉フォーラム」で東山田地区が発表した事例について、あい基金助成金で購入した「自立型スクリーン」に動画等を投影しながら報告しました。参加者からは資料だけの説明よりも分かりやすく、臨場感を持って聞くことができた等の感想が聞かれました。



コロナ禍での新たな取組「ホームページ作成」と更なる取組「広報紙の発行」

川和地区では、新型コロナウイルス感染症の影響でタイムリーな情報共有の難しさが浮き彫りとなり、新たにホームページを作成しました。川和地区の活動や各種おしらせ、関係団体のリンクが紹介されており、スマートフォン等からアクセスできます。また、広報紙を発行して、川和地区地域福祉保健計画や地域懇談会での話し合いの結果、ホームページ開設のお知らせなどを掲載し、地域住民への広報活動に取り組んでいます。

茅ヶ崎南MGCRS地区では、福祉保健活動の情報発信強化と活性化に向けて、連合自治会通信とは別に地域活動紹介に特化した「MGCRS 地域活動だより」を創刊し全戸配布しました。また、ICTを活用したマンション地域における広報や地域づくりを進めるため、研修会を開催するなど検討を進めています。



川和地区連合町内会ホームページは以下よりご覧ください。

<https://kawawarengou.com/>



令和4年度「つづき あい基金」助成金申請スケジュール(予定)

4月末～5月末頃 申請受付

6月 審査会、助成団体の決定

6月末～7月初旬 団体への助成

「つづき あい基金」助成金についてのお問い合わせ

都筑区社会福祉協議会

TEL 045-943-4058 FAX 045-943-1863 HP <http://www.tuzuki-shakyo.jp/>